

# KEYAK!

12月号

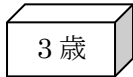
この時期は、一刻も早く葉っぱが全部落ちてくれと願う時期でもあります。掃いても掃いても・・・いっそのこと園舎の屋根に積もるてんこ盛りの落ち葉は、取らずに園の風物詩として認定してしまいたいくらいです。

さて、園の主演の子どもたちによる「こどもかい」いかがでしたでしょうか。保護者の皆様の参加・協力ありがとうございました。こどもかいはもっぱらお母さんたちの出番でしたが、すぐにやってくるお餅つきにはお父さんたちに活躍していただく機会になります。昨今、保護者の方の保育への参加が仕事等の関係で難しくなってきたり、あるいは最初から保護者の参加のなるべく少ない園を選ぶ、という方も統計からは少なくありません。そんな中けやきに来ている!?(参加行事やっぱ多いですか?)皆様はきっと、『子どもと共に歩いていく』ということを実践している人々、なのだと思います。改めまして感謝です。

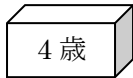
こどもかいの取り組み期間中に、とある年中ぐみで歌をきかせてもらいました。彼らはやる気満々で、私がヤギならとって食われてしまうくらいの勢いで1曲を歌い切りました。すぐさまもう1曲きかせてくれるというので、「みんな今のがすごかったから2曲目は疲れちゃって上手に歌えないんじゃないの?」ときくと、普通なら「大丈夫!」「できるよ!」とかえってくるのを、彼らは間髪入れずに鼻をフンガフンガさせながら、親指を立ててグー(大丈夫)のサインを出す子、チカラコブをつくる子、その場で全力で走るまねをする子、マッチョの大会みたいなポーズをすごい形相でやっている子など、態度で訴えてくるのです。誰に言われるでもなく彼らはそうしたのです。私は別にそこを求めていたわけではないのですが、ない分余計にこの自己表現のしかたに感心してしまいました。それは、ことばよりずっと、説得力があったのです。その時点で彼らの劇活動は全く見てはいませんが、劇以外でも十分すぎる表現活動をしてくれることで、「こどもかい」という取り組みの意図はすでに成立しているのではないかとも思えました。

こどもかい当日というのは、緊張あり照れありで普段の園生活で見せてくれる姿の6、7割くらいが常です。私は毎年どこかのクラスで子どもたちの10割を見ることができて幸せ者です。子どもの潜在能力って計り知れませんが、まだ出てきていない、出し切れていない能力と可能性をいっぱい秘めています。それを引き出すのは、園生活、家庭生活の中でふとした時に生まれてくるキッカケであり、環境であり、そこにお父さんの、お母さんの、保育者の、大人の、当たり前でめんどくさいちょっとしたかかわりなのだと思います。

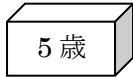
## 今月のねらい（育ってほしい姿や経験してほしいこと）



- ・友達とあそびのイメージを広げ、言葉を交わしながら遊ぶ
- ・劇ごっこなど、ここが面白いと感じたところを思い切り楽しんでみる
- ・異年齢でのかかわりを持ち、親しむ  
（中長の劇をみる・おもちつき・誕生会・クリスマスなど）



- ・おもしろそう、やれそうと思えることに、自分からかかわって繰り返し取り組む
- ・自分の力を発揮するうれしさを感じる
- ・クラス全体でまとまってすると楽しい遊びや活動を経験し、実感する



- ・ドッジボールや鬼ごっこなど、ゲームやルールのある遊びを大勢の友達と一緒に楽しむ
- ・互いにアイデア・イメージを出し合って、話し合ってクラス共通のものにする
- ・全体を見渡して、必要に応じて援助しあうことができる